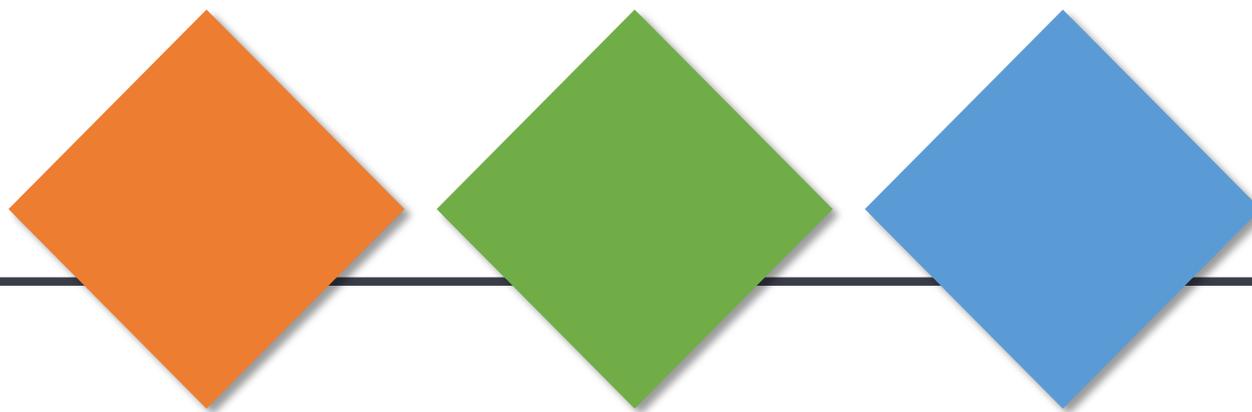




コンテンツ自作編(追加説明のみ)

KoPpoMaiを使った ダイジェストムービーについて



最終発表に向けて

Step 1: 移動データを用意する。

Case 1) 自分がユーザとなりアプリを体験し、移動ログデータを生成する。
実際に体験するのが難しい場合は、

Case 2) Recordファイルを編集して、疑似移動データをつくる。

(創造工房実習2024ではCase1を実施)



Step 2: KoPpoMaiのTravel Clip機能を使って、 見栄えがよく魅力的なダイジェストムービーを制作する。

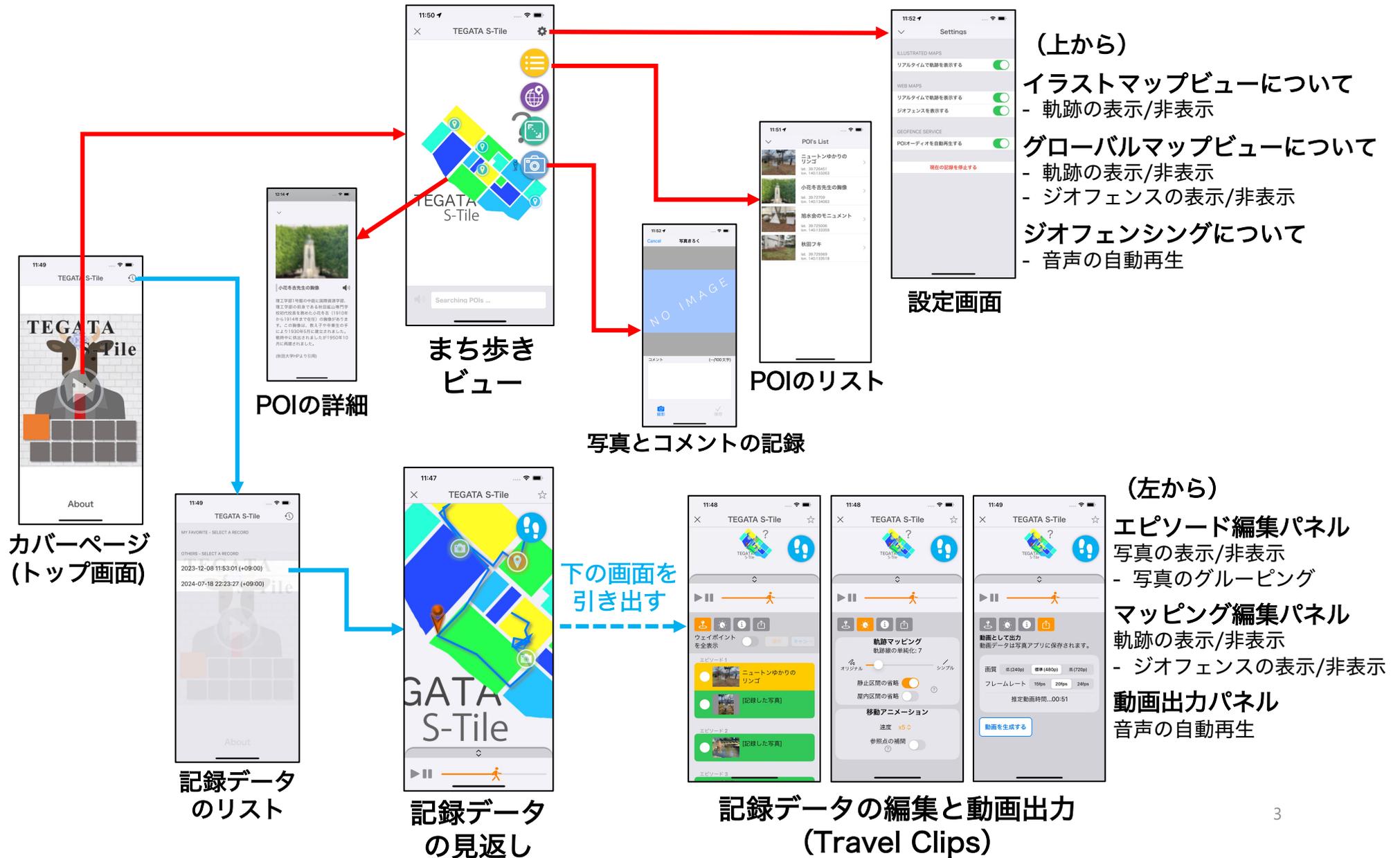
もしも、動画出力がうまくいかない場合は、

iPhoneの「画面収録」を使って、 ログデータを再生している様子を録画する。

「設定 > コントロールセンター > 画面収録」が有効であれば、
コントロールセンター(右図)の●マークから画面録画を開始できる。



アプリKoPpoMaiの画面遷移図



エピソード編集パネル

- ▶ waypoint (Recordファイル内で写真撮影またはスタンプ獲得が記録された参照点データ) がリストされている。
- ▶ リストからwaypointを1つか2つ選択した後、以下の操作を実行してTravel Clipで提示するエピソードを編集することができる。
 - (1) waypointの選択 (追加/除外)
 - (2) waypointのグループ化 (結合/分離)

プレビュー

Waypointの選択

操作の実行

結合

分離

除外

追加

マッピング編集パネル

➤ Mapping

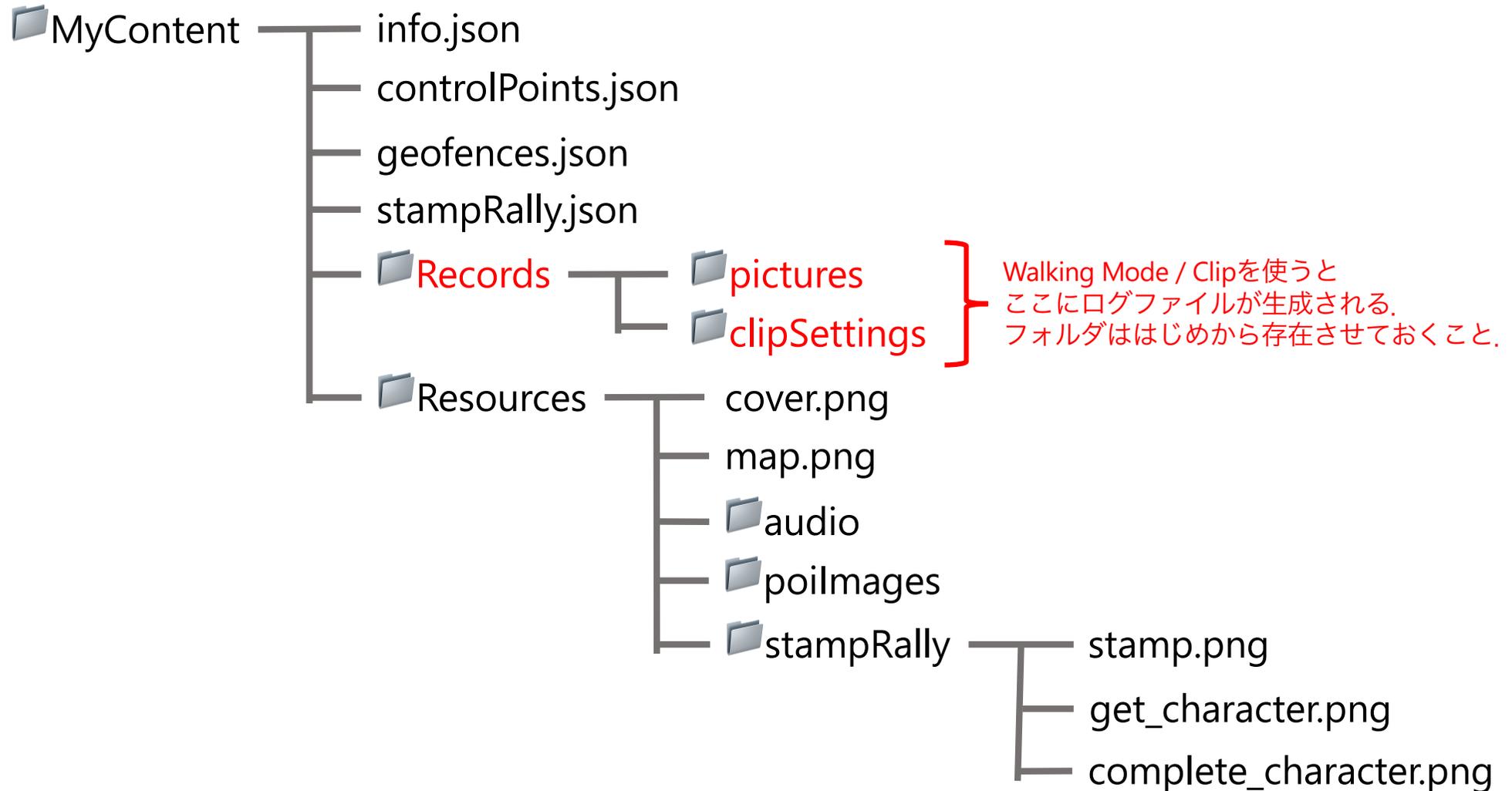
- ・ 軌跡線の単純化: 参照点を間引き, 軌跡線の単純化を調整する (1~50) .
- ・ 静止区間の省略: 加速度センサデータから静止区間を特定し除去する.
- ・ 屋内区間の省略: GPS水平誤差データから屋内区間を特定し除去する.

➤ Tracing

- ・ 速度: トレースアニメーションの速度を変更する.
- ・ 参照点の補間: 間引かれた参照点を線形補間して, 一貫した速度でトレースアニメーションする.



MyContentフォルダの階層



- Recordsフォルダを編集して、
疑似的に移動ログデータを作成することができる。

Recordsフォルダの中身

実世界でのテスト後、Recordsフォルダにログデータが保存されている。



- picturesフォルダ：写真記録機能にて撮影した写真データを格納。
- clipSettingsフォルダ：エピソードやマッピングの編集データを格納。
- Recordファイル：Recordsフォルダ直下に、移動ログデータを格納。

疑似移動データを作成するには、Recordファイルを記述する必要がある。
必要に応じて、picturesフォルダに写真データを配置する。

Recordsフォルダの中身

- 地理空間データの記述に用いられるGeoJSONフォーマットを採用。大きく以下のような構造を持っている(順序が異なっている可能性があります)。

2行目：オブジェクトタイプ
(変更しないでください)

3-8行目：
ログデータファイルの
メタデータ

9行目以降：
移動ログデータ

ここでは、
ポイントオブジェクトの
集合(Collection)として
記述されている。

```
1 {
2   "type": "FeatureCollection",
3   "properties": {
4     "created_at": "2023-12-08T11:53:01+09:00",
5     "user": "EA06A8EA-6DC1-4212-9CF1-C3F2344958FB",
6     "content_title": "TEGATA S-Tile",
7     "description": ""
8   },
9   "features": [
10    {
11      "type": "Feature",
12      "properties": {
13        "acceleration": 1,
14        "horizontal_accuracy": 17.214933988688195,
15        "timestamp": "2023-12-08T11:53:06+09:00"
16      },
17      "geometry": {
18        "type": "Point",
19        "coordinates": [
20          140.13266112243318,
21          39.726225833916374
22        ]
23      }
24    },
25    {
26      "type": "Feature",
27      "geometry": {
28        "type": "Point",
29        "coordinates": [
30          140.13272739590462,
31          39.72620593877268
32        ]

```

ひとつの参照点に
関する情報

Recordsフォルダの中身

➤ ひとつの参照点に関する情報

参照点データの
追加データ

参照点データの
座標データ

```
10 {
11   "type": "Feature",
12   "properties": {
13     "acceleration": 1,
14     "horizontal_accuracy": 17.214933988688195,
15     "timestamp": "2023-12-08T11:53:06+09:00"
16   },
17   "geometry": {
18     "type": "Point",
19     "coordinates": [
20       140.13266112243318,
21       39.726225833916374
22     ]
23   }
24 },
```

} 経度・緯度

typeとgeometryの中身は必須。
coordinatesの中身を編集する。
propertiesは空でも問題ない。

設定したい参照点の数だけ
この構造を配列featuresに並べていく。

○ スタンプ獲得アクション

propertiesにarrived_poi_idを追加する。

```
{
  "type": "Feature",
  "properties": {
    "acceleration": 1,
    "horizontal_accuracy": 4.746181244107462,
    "timestamp": "2023-12-08T11:54:16+09:00",
    "arrived_poi_id": 0
  },
  "geometry": {
    "type": "Point",
    "coordinates": [
      140.13319756927976,
      39.726452395040724
    ]
  }
},
```

○ 写真記録アクション

propertiesにimage_urlを追加する。

```
{
  "type": "Feature",
  "properties": {
    "acceleration": 1,
    "horizontal_accuracy": 4.7965065127054896,
    "timestamp": "2023-12-08T11:55:06+09:00",
    "image_url": "2023-12-08T11:55:06+09:00"
  },
  "geometry": {
    "type": "Point",
    "coordinates": [
      140.13321282757119,
      39.726434739118346
    ]
  }
},
```

疑似データ設定のヒント

- Recordファイル名はタイムスタンプである必要があります.
 - 疑似移動ログデータを作成する場合、一度Walking Modeを起動し、自動生成されたRecordファイルを元にファイルの中身を編集することをお勧めします。
- 写真記録機能で記録したjpgファイルの名前は、必ずしもタイムスタンプである必要はありません.
 - image_urlとjpgファイル名が対応していれば、正しく読み込まれます。
- clipSettings(Clip-xxx.json)を削除すると編集内容が初期化されます.
 - 移動ログデータの編集後、ファイルの記述は適切にもかかわらずPresentation Modeが開かない場合、clipSettingファイルを削除してください。